

2014年度自己点検評価（システム理工学部語学部会）

語学部会
主査 ダリル モエン
伊藤和寿
ウオント盛香織

目次

1. 教員・教員組織
2. 教育内容・方法・成果
3. 学生の受入れ
4. 学生支援

1. 教員・教員組織

語学プログラムの専任教員は2名であり（両名とも英語担当）、語学部会の運営を行っている。英語カリキュラムの非常勤講師は15名おり、英語圏出身の教員だけでなく、ハンガリー、フィンランド、日本出身のバイリンガルの教員がおり多様な人材が揃っている。教員の教育背景は社会学、文化人類学、女性学、哲学、歴史等多彩であり、学生の多文化意識・クリティカル・シンキング向上を目的とする部会目標に適した人材が揃っている。第二外国語担当非常勤講師は7名おり、教える言語のネイティブか、ネイティブに近い日本人講師を配し、学生にとって初めての言語を教えるのに適した経験豊かな講師陣となっている。

2015年度から始まる理工系に特化した語学プログラムの展開に伴い、専任教員の公募を行った。専任教員の公募は、応募人数は少なかったものの、理工系にバックグラウンドを持ち、理工系英語プログラムを担う専任教員が8月に決定した。

非常勤講師に関しては、過去定着率に問題があったが、やや落ち着く傾向となっている。非常勤講師は、外国人が多いため、ハッピーマンデーのシステムや、休講後の補講の実施、遅刻欠席の連絡等が日本語でしか通知されないため、日本語を十分に理解しない非常勤講師にとっては、十分に周知されないことがあったため、こまめに専任教員が非常勤講師とコミュニケーションをとると同時に、書面での周知を徹底している。今後も非常勤講師の管理には注意を払っていく。

2. 教育内容・方法・成果

システム理工学部言語学プログラムの教育理念は、教育は学生の自主性の形成と、より公平な社会作りに重要な役割を担っており、我々教育者には、市民として学生が社会的、文化的、政治的に行動するためのビジョンを与える教育を提供する必要があるとするものである。教育者、学生として必要なことは、知識や真実の獲得だけでなく、善悪、不正や格差を克服する意思、社会現象に関連する幅広い視野を持つ、といった倫理感を持つことであるとする。

語学部会の教育理念はしたがって、言語を習得することによって、日本だけでなく、世界における様々な社会問題を学生が自身の問題として捉え、多様な考え方を身につけ、不公平な社会構造を変える可能性を考え出し、そうした可能性を実現する力を学生に与えることであり、この理念に従い、以下の教育目標を掲げ、学教育を行っている。

●教育目標

- ・英語・第二外国語を通じた学生のクリティカル・シンキング能力の開発
- ・英語・第二外国語を通じた学生の多文化理解の促進
- ・性、出自、宗教、民族等を根拠とした不当な差別の克服
- ・英語・第二外国語を通じたコンフリクト解決スキルの取得
- ・科学と技術、倫理の関係性の理解
- ・英語・第二外国語を通じ、多様な考え方を学生に伝える
- ・多様な社会問題を各授業で扱うことで、学生の多文化共生意識の向上促進
- ・ネイティブ教材を使用した英語・第二外国語のリーディングならびにライティング能力の向上
- ・英語・第二外国語によるディスカッション能力の向上ならびに学生の主体的参加の促進

教育理念は、「学修の手引」並びに学部ホームページに掲載し、毎年内容を見直して掲載を行っている。教育目標に準じたシラバスを各教員に作成してもらい、毎年最新の内容を学生に提示している。

<根拠資料>

- ・各クラスのシラバス詳細：<http://resea.shibaura-it.ac.jp/>
- ・語学部会の理念：http://www.se.shibaura-it.ac.jp/english_en.phpならびにシステム理工学部『学修の手引』

●教育内容

システム理工学部言語部会では、上記の教育理念を実施するために、様々な教育背景や教育アプローチを熟知した教員（専任・非常勤を含める総勢 24 名）を配し、効果的なカリキュラム展開を行っている。語学教育は英語教育と第二外国語教育を行っている。英語教育はデ

ィスカッションを中心として展開していることから、少人数教育が望ましいため、学生数 25 人以下で行うよう実施している。2008 年、2009 年の学部学科増設に伴い、適切に小人数教育が実施できるよう、非常勤講師数を増やした。第二外国語に関しても、かねてから学生より要望のあったスペイン語、フランス語を 2008 年に新設し、受講者の多い中国語の授業数を増やした。授業はシラバスにしたがって適切に行われている。

芝浦工業大学システム理工学部の卒業要件を満たすには、学生は英語単位を少なくとも 8 単位取得する必要がある。学生は、システム理工学部ならびに他学部の英語科目から履修科目を自由に選択できる（注：但し、他学部の英語授業は履修者数等の都合により履修が認められない場合がある）。1 年次前期のみ、履修クラスは事前に決定されるため、5 号館掲示板にて発表される配属クラスの掲示を確認することとなっており、こうした手順に関しては、入学時のガイダンスにおいて学生に周知している。1 年次後期以降は、事前履修登録（Web システム「S*gsot」で手続きする）において、履修したいクラスの希望を登録することができる。授業開始までには、配属クラスが発表されるので学生には各自、確認するよう周知している。

システム理工学部のイングリッシュ・コースはすべてコンテンツ・ベースドである。コンテンツ・ベースドの英語教育とは、教育理念を効果的に伝えるための教育メソッドである。英語に関しては、リスニング、ライティング、スピーキング、リーディングというすべてのスキルがばらばらではなく統一して教授され、授業を通じて、学生が英語能力に自信が持てるようになってきている。こうした教育方法は、ホリスティック・アプローチとよばれる。学生は英語圏で実際に使用されている「本当」の英語教材を通じて学び、そうした教材は社会性があり、大学生にとって理解できるレベルの教材となっている。学生は知的刺激に満ち、内容の豊かな学習環境で英語能力を獲得できる。コンテンツ・ベースド・コースは、このように英語学習者用のテキスト学習、英訳練習、日常会話練習、読解テスト、といった従来の文法中心の英語教育とは趣を異にしている。

第二外国語・コースは、1 年次は語学の基礎を学び、2 年次は 1 年次で学んだ語学のさらなる発展ならびに、各言語の文化背景を学ぶ内容となっている。

●イングリッシュ・カリキュラム

- ・ 1 年次 English Critical Thinking I（前期 2 単位） English Critical Thinking II（後期 2 単位）
- ・ 2 年次 English Social Issues English I（前期 2 単位） English Critical Thinking I（後期 2 単位）
English Critical Media Studies I（前期 2 単位）
- ・ 3 年次 English Critical Media Studies II（前期・2 単位） English Analysis of New

Social Movement (後期 2 単位)

- * 上記に加え、学外英語検定 I・II (通年・各 2 単位) がある。
- * 学生は卒業までに英語科目を 8 単位 (選択) を取得することが、卒業要件となっている。

●第二外国語・カリキュラム

第二外国語のカリキュラムには、中国語、韓国 (朝鮮) 語、スペイン語、ドイツ語、フランス語があり、ドイツ語以外は各言語ネイティブの教員を配している (ドイツ語担当教員もネイティブレベル)。第二外国語カリキュラムでは、1 年次向けの各科目は、語学習得を主に目的とするが、2 年次の各科目では、各言語の文化や歴史、社会等も学べるクラスを総合科目として提供しており、学生の言語ならびに国際社会理解の促進に貢献している。以下が第二外国語カリキュラムである：

- ・ 1 年次：中国語 I・II、韓国 (朝鮮) 語 I・II、スペイン語 I・II、ドイツ語 I・II、フランス語 I・II
- ・ 2 年次：中国語圏の文化と歴史 I・II、韓国 (朝鮮) 語圏の文化と歴史 I・II、スペイン語中国語圏の文化と歴史 I・II、ドイツ語中国語圏の文化と歴史 I・II、フランス語中国語圏の文化と歴史 I・II

* 学生は卒業までに第二外国語科目を 2 単位 (選択) を取得することが、卒業要件となっている。

●教育成果

英語・第二外国語カリキュラムともに、学生の授業への満足度は高く、学生による授業評価アンケートでも満足度が高いことが実証されている。語学部会カリキュラムに対する学生の満足は、学生がそれまで知ることのなかった様々な社会問題を、授業を通じて学び、クラスメートや教員とディスカッションをすることでさらに理解が深まり、学生の視野が広がることから生じることが、学生評価アンケートのコメントから伺える。授業を通じて、社会に対する視野が広がるということは学部教育理念 (<http://www.se.shibaura-it.ac.jp/dean.php>)、ならびに大学教育理念 (http://www.shibaura-it.ac.jp/about/president_message.html) とも合致する。また、第二外国語に関しては、卒業要件単位が 2 単位にあるにもかかわらず、内容の豊かさから、2 単位以上履修する学生が多い。このことから、教育内容の充実ぶりが伺える。

語学力の向上に関しても、学生から「ディスカッションを通じて、英語で話す自身がついてきた」、「第二外国語をネイティブに使ってみたら通じて嬉しかった」、といった肯定的な

意見が同じく授業評価アンケートから伺える。多くの語学教員の授業評価アンケートの結果は高く、授業の質の高さが読み取れる。しかしながら、就職活動時及び大学院進学時等、TOEIC テストスコアの提出を要求される場面が増えているため、実用的な英語能力カリキュラムの必要性も学生から聞かれるようになってきている。

語学教育は現在、3年次までしか提供されていないため、4年次で空白が生じる。現在の英語カリキュラムが、学部3、4年生ならびに大学院生に十分に提供されていないため、就職や大学院進学時、進学後に役立つような語学カリキュラムへの期待値が増している。こうした背景から、2012年1月に学部長より、語学カリキュラムの強化の要請を受け、「語学教育に関する将来像検討委員会」（以降、「委員会」と表記する）が語学部会教員を含む、本学部全学科から選ばれた5名の教員、計8名の構成により発足し、効果的かつ継続的に語学教育をどのように行っていくか検討した。語学部会と当委員会の話し合いにより、例えば、学部生向け英語による理工系専門科目授業の展開、大学院進学予定の4年生への英語授業の提供、TOEIC テストの受験の制度化等を通じ、本学部学生の語学力が向上するよう、さらなる語学教育の強化・拡充が検討された。その結果、2015年度からの英語教育に関して検討委員会は、2015年から特に英語のカリキュラムの実施に関して、理工系の学生のニーズに合った英語教育（4年時の英語教育の提供は含まない）、TOEIC の導入等を決定した。（詳細は根拠資料 PDF ファイル）。

3. 学生の受入れ

語学部会では、部会の理念・教育目標を実現するために、学生の受け入れに関して、以下の制度を整備している：

- ・英語のクラスに関しては、効果的に英語能力を向上し、コンテンツ・ベースド授業を展開するために、25人以下のクラス編成を実施している。1クラスにおける人数を25人以下に制限しているのは、授業がディスカッションを中心とし、学生と教員、並びに学生間のコミュニケーションを円滑に図るためである。コミュニケーション能力の獲得という意味では、より少数人数での教育展開が望まれるが、これは今後の課題である。
- ・第二外国語のクラスに関しては、授業内容が、コミュニケーションというよりも、文法学習が中心なので、1クラス30人以下で学生の受け入れを実施している。

大学のグローバル人材育成プログラムの展開により、留学生数が多くなり、大学の要請を受けて、日本語の授業も新設した。

4. 学生の支援

語学プログラムの教員はみな、オフィスアワーを設け、学生の授業時間外での質問や相談を受け、学生の語学学習支援を行っている。また、新設の日本語授業では、留学生が日本語を学ぶことで、日本での生活ならびに研究がスムーズにいくよう、語学の側面からの支援を行っている。